

## 中国経済の成長は減速するものの堅調を維持

【香港、2008年9月16日】 アジア開発銀行(ADB)は16日、最新の経済見通しである「[アジア開発展望 2008年改訂版](#)」(ADOU)を発表した。それによると、2008年、2009年の中国の経済成長は減速するものの、世界全体の中では引き続き高い経済成長率に留まっている。

ADOUは、2008年の中国の経済成長率がこの13年間で最高だった昨年の11.9%から低下し、10.0%となるとしている。一方、2009年は世界経済の減速を受けて輸出が減少し投資の伸びが鈍化するため、9.5%になると予測している。

「外需の減少や金融引き締めにより中国の経済拡大はやや縮小したが、それでもなお、2008年前半は10.4%という高成長となっている」と[ADBチーフエコノミストのイフサル・アリ氏](#)は述べている。

同報告書は、先進国の需要減少が輸出に悪影響を与える一方、商品価格の高騰によって輸入価格が押し上げられ、輸入額の伸びが輸出額の増加を上回り、貿易黒字は11%縮小するとしている。

また、実質ベースの固定資本投資は、2007年に22%と強い伸び率を記録したが、2008年前半期は15%程度におちつくとしている。この低下は、燃料・電力・第一次産品価格の上昇、製造業の利益低下、信用収縮による不動産市況の下落、政府の不動産・製鉄・セメント・アルミニウム・自動車産業への資本投資抑制策などの要因が重なり合ったことによる。

2008年前期の民間消費は、実質所得の増加と、都市部における640万人の雇用創出により、堅調に推移した。「投資と輸出が低迷する中での民間消費の回復は、需要サイドの不均衡の調整が進んでいることを示している」とアリ氏は述べている。

中国のインフレ率は、食糧価格の上昇を主要因として、2008年の初期に8.7%のピークに達した。ただし、穀物収穫高が予想を上回る豊作だったことや2007年にウィルス感染により落ち込んだ豚肉生産量が回復したことにより、インフレの進行は年央に小休止した。2008年の消費者物価上昇率は、4月に発表された「アジア開発展望」の5.5%を上方修正し、7.0%の見通しとなっている。

---

### お問い合わせ先

駐日代表事務所

広報担当：望月 章子

T: +81 3 3504-3441/3160

E-mail: [amochizuki@adb.org](mailto:amochizuki@adb.org)

ADBのニュースリリース(和文)は、下記URLにてご覧いただけます。

<http://www.adb.org/JRO/doc-news.asp>

2009年についても、予想を超えた燃料・電力価格の上昇が製造コストを上昇させ、これが消費者価格に転嫁されることから、4月時点の予測である5.0%が5.5%に上方修正された。

銀行貸出状況については、2008年後半初めから、小企業を支援し、事業縮小を回避するため、貸し出し規制を緩めていくものとみられる。財政政策面は、軽微ではあるものの引き続き拡大路線が採られると見込まれる。

「2009年の経済成長率9.5%という我々の予想は、長期的に持続可能な成長率である9～10%のレンジ内に収まるものであり、エネルギー、インフレそして環境にかかっている重圧を和らげるものである」とアリ氏は述べている。

同報告書は、今後の主なリスクとして、輸出の急激な落ち込みと、インフレが2ケタ台になった場合に金融引き締めを強化する必要性が生じる点を挙げている。

---

**お問い合わせ先**

駐日代表事務所

広報担当：望月 章子

T: +81 3 3504-3441/3160

E-mail: [amochizuki@adb.org](mailto:amochizuki@adb.org)

ADBのニュースリリース(和文)は、下記URLにてご覧いただけます。

<http://www.adb.org/JRO/doc-news.asp>